



### 天狗像

江戸時代後期～明治時代 大阪歴史博物館蔵  
(中尾堅一郎氏寄贈)

赤い大天狗と青い小天狗が向かいあい、その足元には水が流れています。さらにその奥には、羽団扇と巻物を持つ天狗が坐しています。天狗が持物として巻物を持つ例はあまりみられず、巻物が描かれた理由はわかりません。しかし、修験道の開祖ともされる役行者の持物に錫杖、独鈷杵のほかに経巻があることから、山岳仏教との関係性が想像できます。



### 朱鍾馗図 丹羽桃溪筆

文化8(1811)年 大阪歴史博物館蔵  
(松村恭一氏寄贈)

鍾馗は、病魔を祓うとされる神で、退魔の呪力をはらむ赤色でこれを描く画題を「朱鍾馗」といいます。後ろを振り返る鍾馗の左手には小鬼が捕らえられ、叫ぶかのように大口を開けています。右下には「辛未端午」とあるので、この絵は端午の節句に飾られたのでしょう。作者の丹羽桃溪(1760～1822)は江戸時代の大坂で活躍した絵師で、「摂津名所図会」の挿絵を描いたことでも知られています。



### 『願懸重宝記』

文化13(1816)年 大阪歴史博物館蔵

濱松歌国(1776～1827)の著書で、大坂や周辺地域における病氣平癒や諸願成就に靈験ある神仏と祈念の方法などをまとめた本です。痲瘡や痔疾の平癒、厄除け、商売繁盛などの靈験が記載され、近世大坂における庶民の現世利益信仰をありありと物語ります。

### 守刀・守袋

江戸時代後期～明治時代 大阪歴史博物館蔵  
(鴻池善右衛門氏寄贈)

大坂の豪商・鴻池家に伝来した婚礼道具のうち、刀掛けである「守掛」一式に含まれていた守刀と守袋です。守刀は魔除けのための刀剣で、結婚に際し、花嫁にこれを持たせるといふ風習がみられます。守袋は護符を入れる小型の袋で、災害や病氣などを避けるためのものです。宮参りの際、守刀に守袋を下げて携行するなど、両者は取りあわせられることも多いものです。刀を入れる袋と守袋には吉祥文様である宝尽くしの模様が施され、厄除けの意だけでなく、婚礼の喜びも感じとれます。



### 地こく変

菅橋彦筆  
明治41(1908)年  
大阪歴史博物館蔵

近代大坂で活躍した画家・菅橋彦(1878～1963)が明治41年に高野山を訪ねた折に描いたもので、箱書きには「同行の二童子に戯に書き与へるものなり」とあります。この場面では、獄卒が連れてきた亡者を、閻魔王が身を

乗り出し喝破しています。その左では、獄卒が亡者を掴み、生前の悪行を写す浄玻璃鏡の前に突き出しています。全体が戯画的に描かれ、地獄の裁きという戦慄の光景にも関わらず、どこか親しみのある絵となっています。



### 天王寺動物園

## ペンギンとアシカの新居

2023年4月末に新しい獣舎がオープンします。新獣舎にはファンボルトペンギンとカリフォルニアアシカが展示されます。ファンボルトペンギンの展示場は生息地の南米チリのチロエ島プニウィル、カリフォルニアアシカの展示場はアメリカ西海岸の港をモデルとして、大型の水槽に造波装置や起流ポンプによる水流を起こし、水上と水中から動物たちのダイナミックな動きがご覧いただけます。さらに、この施設では動物の動きを見ていただくだけでなく、絶滅の危機にあるファンボルトペンギンのおかれている現状や、カリフォルニアアシカと人との共生による問題点などについても学んでいただける施設となっています。

天王寺動物園飼育展示課 今西隆和

※ペンギン・アシカ舎は南園のホッキョクグマ舎の前にオープンします。現在園内工事のため、ペンギン・アシカ舎へは旧コアラ館の前からクマ舎方面へお進みください。最新情報はホームページにてご確認ください。

住所 〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-108 TEL 06-6771-8401 FAX 06-6772-4633

ホームページ <https://www.tennojizoo.jp/> アクセス Osaka Metro「動物園前」1号出口、「恵美須町」3号出口、「天王寺」5号出口



ファンボルトペンギン



カリフォルニアアシカ



ペンギン・アシカ舎イメージ図

大阪市立の博物館・美術館・動物園 **Osaka Museums** <https://museums.ocm.osaka>

大阪歴史博物館

大阪城天守閣

大阪市立自然史博物館

大阪市立美術館

大阪市立東洋陶磁美術館

大阪市文化財協会

大阪市立科学館

天王寺動物園

大阪中之島美術館

大阪くらしの今昔館